島根県水産技術センター　トビウオ通信 号外　令和７年12月４日発行

とびっくす No.125

（本誌はホームページでもご覧いただけます。https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ ）

令和７年度秋季ヤマトシジミ資源量調査結果

～宍道湖ヤマトシジミ資源は大きく増加
漁獲対象のシジミ資源は過去２番目の高水準～

島根県水産技術センター内水面浅海部では、毎年６月（春季）と10月（秋季）に宍道湖に生息するヤマトシジミ（殻長２mm以上）の資源量を推定するための調査を行っています。今年度の秋季調査を令和７年９月30日、10月2、3 日に実施しましたので結果を報告します。

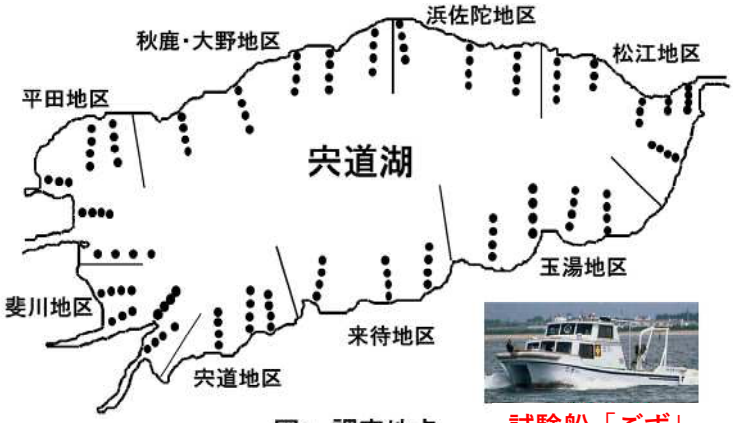

図1　調査地点

試験船「ごず」

調査方法

図1に示す調査定点（126 ヶ所）において調査船「ごず」を使用し、スミス・マッキンタイヤ採泥器で各定点２回（面積 0.1 m^2）、湖底の砂泥と一緒にヤマトシジミを採集しました。採集した砂泥サンプルは、フルイでヤマトシジミをサイズ別に選別し、生息密度と水深別の漁場面積から宍道湖全体の資源量を算出しました。

調査結果および考察

令和７年度秋季のヤマトシジミの資源量（表）は約 7.3 万トン、約 1,754 億個が生息していると推定されました。本年春季（約 3.5 万トン）と比べると、約 3.8 万トン（112%）の増加、昨年秋季（約 4.2 万トン）からは約 3.1 万トン（74%）の増加でした。令和４年秋から令和６年春にかけて急減（57%）した資源量でしたが、本年春から秋にかけて大きく増加していました（図２、破線枠部分）。

内訳をみると、漁獲対象となる殻長 17 mm 以上は、約 3.9 万トン、127 億個でした。これは、秋季資源量調査の過去 23 年平均値（約 2.0 万トン）の 198%で、昨年秋季（約 2.7 万トン）から大きく増加しています。

表　ヤマトシジミの資源量

サイズ		重量（トン）	個体数（億個）
未成貝	殻長 12 mm未満	14,278	1,396.5
成貝	殻長 12 mm以上 17 mm未満	19,819	230.9
	殻長 17 mm以上（漁獲対象）	39,222	126.9
	成貝合計	59,041	357.8
全資源量		73,319	1,754.3

今後の見通し

漁獲対象資源重量は昨年秋季に比べて大きく増加(45%)し、これまでの秋季調査結果中2番目の高水準となっていました(図2 青線)。個体数密度でも令和4年～6年までの減少傾向から増加に転じています(図3 青枠)。

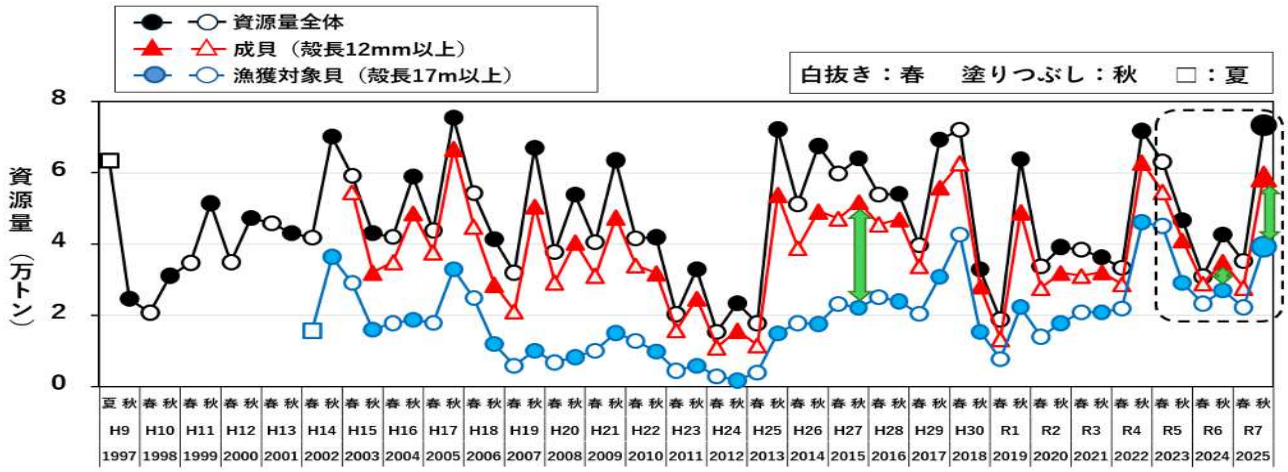

図2　宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移

宍道湖漁協では令和4年秋から令和6年春にかけての漁獲対象資源重量の急減(50%)を機に、令和6年8月から機械掻き操業の漁具(ジョレン)の目合いを拡大(11mm→12mm)して、殻長 17～19mm サイズのシジミの漁獲を軽減しています(図3 青枠中灰色部分)。この漁獲対象資源に対する管理対策開始以降、その減少に歯止めがかかり、本年春から秋にかけては急激に増加しました。ただし、その効果の評価には今後のデータの蓄積が必要です。

漁獲対象となる直前の小型成貝(殻長12 mm以上17 mm未満)の重量は令和4年秋～本年春までは減少傾向にありましたが、今回の調査では大きく増加し、資源量全体が安定的に6万トン前後で維持されていた平成25年～28年の水準に近づきつつあります[図 2:成貝(赤線)と漁獲対象貝(青線)との差分、上下緑矢印]。また個体数密度でも令和 6 年秋と比較して大きな増加が見られました(図3 緑枠部分)。

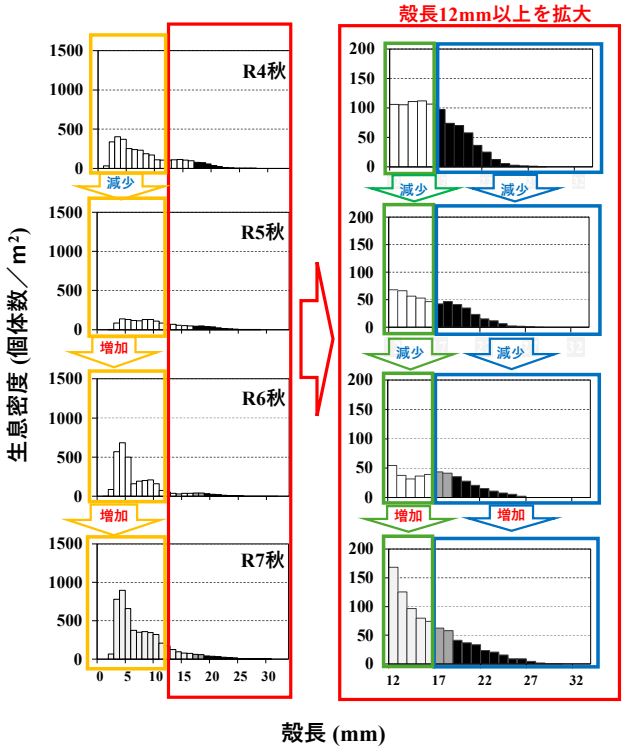

図3　宍道湖全体のヤマトシジミの殻長組成
(R4～R7：秋季　全調査地点の平均)

現在のところ、漁獲量は高水準にある漁獲対象資源に支えられており安定しています。また小型成貝も前述のとおり回復しており、中期的にも明るい見通しとなりました。

さらに未成貝(殻長 12mm 未満)の個体数は令和 6 年以降、増加傾向にあり(図 3:黄枠部分)、長期的にも期待が持てる状況です。

今後も資源動向を注視するとともに、引き続き漁獲対象資源の計画的な利用が望まれます。

島根県水産技術センター　島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1
TEL:(0855)22-1720　FAX:(0855)23-2079
ホームページ:　https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/
E-mail:　suigi@pref.shimane.lg.jp